

## 『ラテンアメリカ・カリブ研究所レポート』

### 「新型コロナ・ウイルス感染再爆発のラテンアメリカ：ワクチンだけで蔓延抑止の特効策となるのか？」

桑山幹夫<sup>1</sup>

- I. はじめに
- II. 感染拡大の推移とワクチン接種の進捗状況
  - 1. ブラジル
  - 2. メキシコ
  - 3. チリ
  - 4. パラグアイ
  - 5. ウルグアイ
- III. COVAX ファシリティ
- IV. ラテンアメリカでのワクチン開発の試み
- V. 「VIP ワクチン」スキャンダル
- VI. 結論に代えての附言

#### I. はじめに

ラテンアメリカ・カリブ (LAC) 地域で 3 月に入ってから新型コロナ・ウイルス (以下 COVID-19) 感染が再爆発し、医療体制の逼迫状態が続く国が増えている。本稿執筆時点 (4 月 10 日) においては、地域全体で約 2620 万人の感染者および 81 万人以上の COVID-19 関連の死亡者が確認されている。ブラジルでは、3 月だけで過去最多の 6 万 6573 人の死亡者が記録された。昨年 7 月の月別最多記録 3 万 2881 人の 2 倍に相当する。コロンビア、アルゼンチン、メキシコでも累計で 220 万人以上の感染者が確認されており、ペルーでも 160 万人を超えた。LAC 地域全体で 3.2% という致死率 (感染者数に対する死亡者数比率) は、世界平均の 2.2% を遥かに上回る<sup>2</sup>。症状が重篤化し、集中治療が必要となる感染者が域内で増えている。

世界で最も高い致死率を示すのが LAC 地域でその域内で、COVID-19 ワクチン調達とその接種ペースに格差が出ている。アルゼンチン、チリ、コスタリカ、メキシコで 2020 年 12 月の最終週に接種が開始されているが、その後 LAC 地域の大半の国で接種が始まった。ワクチン確保の必要性を早期に認識し、大規模なワクチン接種キャンペーンを展開して接

---

<sup>1</sup> ラテンアメリカ協会常務理事、ラテンアメリカ・カリブ研究所上級研究員。神戸大学経済経営研究所リサーチフェロー。本稿で示された見解は著者個人のものであり、必ずしもラテンアメリカ協会の見解を反映するものではない。正確を期したが、誤りがあれば筆者の責に帰す。

<sup>2</sup> LAC が世界の感染者数 (累計) に占める割合は 4 月 10 日時点で 19% と高い水準で推移している。死亡者数 (累計) の対世界比率が同時期で 28% にのぼり、LAC 地域の致死率 (3.2%) はアフリカ (2.6%) 欧州 (2.2%)、北米 (1.8%) と比べて高くなっている。

種回数が人口比で世界最多を誇るチリでも、感染者と死亡者が急増している<sup>3</sup>。そのチリ政府が契約済みのワクチンの量の約 7 割が中国のシノバック製だ。一方で、人口比で域内最多の死亡者が出て、3月に入っても新規感染者数の増加が止まらないペルーでは、政府は調達先である製薬会社の多様化を図りながら、できるだけ多くのワクチン接種回数分の確保に努めている。だが、接種のペースは加速していない。

LAC 地域全体の 50%超の感染者および 40%の死亡者が確認されているブラジルでは、政府当局が 5 億回分超のワクチン購入手続きを終えているといわれる。中国製ワクチンの割合が低く、調達先も多様化されている。だが、政府のワクチン対策に批判の声を上げる国民は多い。対照的に、アルゼンチンやボリビアのように、ワクチン確保を早くから開始し、米ファイザー製よりも速く調達できることを考慮に入れて、ロシアのスプートニク製を優先してきた国もある (BBC News Mundo 2021a)。これまで感染封じ込め対策の評価が高かったウルグアイでは、ワクチン接種率はチリに次ぎ域内で 2 番目に早いペースで進んでいる反面、3月から始まった感染拡大に歯止めがかかっていない。感染拡大防止策が評価されてきたパラグアイでも3月から感染が急拡大する中、ワクチン接種が遅れている。

今のところ、LAC 域内では、ワクチン調達とその接種が予定通り進んでいない国が大半だ。チリやウルグアイのように、接種が順調に進んでいるといわれる国でも、感染拡大を抑制するまで接種効果が現れていないのが実情だ。ブラジルのアマゾン地域で発生した P1 の呼称で知られる「マナウス」株による感染の拡散がその背景にある。ペルーでは COVID-19 感染者の 40%から P1 変異種が検出されている。ウルグアイでは 30%、パラグアイでもブラジルと国境を接する地域では 5 割の感染者が P.1 感染している。アルゼンチンのブエノスアイレス州や首都でも P1 が検出されている (IAD 2021o)。

感染の再爆発の煽りを受けて、国境封鎖やロックダウン、マスク着用の義務化、事業閉鎖などの社会的接触を制限する措置を強化する国もある。経済回復だけでなく、経済的、社会的弱者の救済のための支援策を再発動する国もある。ワクチンの普及が大幅に遅れた場合、LAC 地域の成長予測の大きな下方修正が必要となる。ワクチン調達とその接種プロセスがさらに遅れ、ワクチンへのアクセスに国民の間で不公平感が強まれば、政情不安にも繋がりがかねない。ワクチン効果が国内に広まり、集団免疫ができるまでには時間がかかりそうだ。

本レポートは、LAC における感染の再爆発とワクチン接種状況を踏まえたうえで、ブラジル、メキシコ、チリ、パラグアイ、ウルグアイの 5 か国のケースを比較しながら、接種率の格差の背景にある要因、そして接種回数の増加が必ずしも感染拡大の抑制に繋がらない

---

<sup>3</sup> 4月10日現在、チリ政府が COVID-19 で死亡したと断定する患者数は 2 万 3524 人だが、政府当局によれば、その他に死因が COVID-19 であると疑われる「過剰死亡者」は 7779 人にのぼる。

背景を考察する。

## II. 感染拡大の推移とワクチン接種の進捗状況

LAC 域内の感染拡大を 7 日移動平均感染者数で見ると、今年 2 月まで新規感染者数が横ばいで推移していたブラジル、ペルー、チリ、パラグアイ、ウルグアイ、キューバ、ベネズエラで 3 月から急増している。一方で、メキシコ、ボリビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、パナマでは、4 月に入っても感染者数は低下傾向にある。アルゼンチン、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラスでは、高止まりとなっている。死亡率（100 人当たりの死亡者数）で見ると、ベルギー（2021 人）、英国（1876 人）、イタリア（1884 人）、米国（1697 人）ほど高くはないが、ペルー（1649 人）、ブラジル（1641 人）、メキシコ（1606 人）、パナマ（1427 人）、コロンビア（1283 人）、アルゼンチン（1269 人）チリ（1261 人）、ボリビア（1065 人）など、1000 人を超える国が増えている（表-1 を参照）。

表-1：ラテンアメリカ・カリブ（33 か国）における Covid-19 の感染拡大およびワクチン接種の進捗状況（2021 年 4 月 10 日現在）

国名	感染者数(人) (A)	死亡者数(人) (B)	致死率(%) (B) / (A) * 100	死亡者数 (百万人当たり)	ワクチン回分 数(人当たり)
ブラジル	13,445,006	351,334	2.6	1,641	12.11
コロンビア	2,518,715	65,608	2.6	1,283	5.53
アルゼンチン	2,517,300	57,647	2.3	1,269	10.97
メキシコ	2,278,420	209,212	9.2	1,606	8.52
ペルー	1,639,767	54,669	3.3	1,646	3.00
チリ	1,068,522	24,213	2.3	1,261	61.61
パナマ	358,377	6,159	1.7	1,427	11.08
エクアドル	344,877	17,275	5.0	973	2.02
ボリビア	280,649	12,428	4.4	1,065	3.63
ドミニカ共和国	257,186	3,385	1.3	312	10.15
パラグアイ	233,745	4,749	2.0	659	0.68
コスタリカ	222,544	3,018	1.4	592	9.91
グアテマラ	202,640	7,001	3.5	389	0.74
ホンジュラス	194,548	4,766	2.4	481	0.53
ベネズエラ	173,786	1,759	1.0	61	0.34
ウルグアイ	141,380	1,414	1.0	392	28.73
キューバ	85,572	453	0.5	40	
エルサルバドル	65,491	2,048	3.1	315	2.78
ジャマイカ	42,119	669	1.6	223	1.42
ハイチ	12,840	252	2.0	22	
ベリーズ	12,485	318	2.5	800	5.55
ガイアナ	11,044	252	2.3	320	5.14
バハマ	9,364	189	2.0	481	1.78
スリナム	9,278	179	1.9	303	5.56
トリニダード・トバゴ	8,382	145	1.7	104	0.34
ニカラグア	6,727	179	2.9	27	
セントルシア	4,347	64	1.5	349	12.61
バルバドス	3,719	44	1.2	153	22.18
セントビンセントおよびグレナディーン諸島	1,790	10	0.6	90	9.48
アンティグアバーブーダ	1,197	30	2.5	306	26.98
ドミニカ	165	0	0.0	0	25.16
グレナダ	155	1	0.6	9	8.73
セントクリストファー・ネイビス	44	0	0.0	0	16.12
LAC (33か国) 合計	26,152,181	829,470	3.2	1,293	

注：致死率（感染者数に対する死亡者数比率）

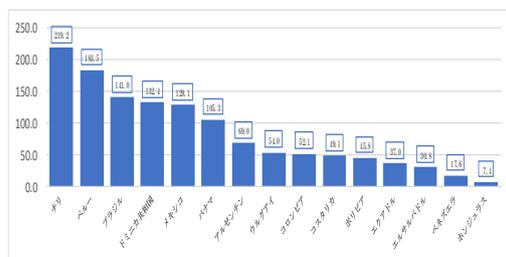
出所：米ジョンズ・ホプキンス大学のデータおよび Our World in Data, Coronavirus (COVID-19) Testing のデータに基づいて、筆者作成。

ラテンアメリカでは、総人口にいきわたる十分なワクチン調達に向けて、各政府が製薬会社と購入契約を結んでワクチン調達を進めている。例えば、Horwitz and Zissis (2021)によると、チリは人口の2倍超(219%)をカバーできるワクチンを確保している。ペルー(184%)、ブラジル(141%)、ドミニカ共和国(132%)、パナマ(105%)でも、総人口を接種するに十分な回数分が確保されている。一方で、ボリビア、エクアドル、エルサルバドルやベネズエラ、ホンジュラスなどの諸国では、調達プロセスが進んでいない(図-1A)。

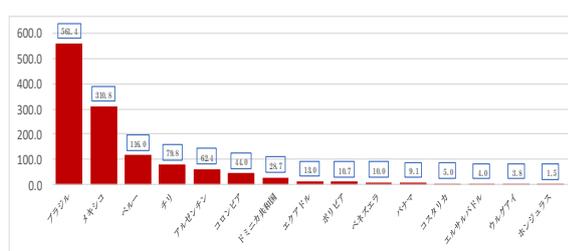
契約済みのワクチン回数分を国別で見ると、ブラジルで5億6100万回分が確保されている。次いで、メキシコ(3億1100万回)、ペルー(1億1600万回)が多く、チリ(7980万回)も政府が購入する回数分が多い(図-1B)。政府購入に加え、約2億8000万回分がCovid-19ワクチン配布の国際的枠組みである「COVAXファシリティ」を通じてLAC諸国に配布される予定となっている(Horwitz and Zissis 2021)。このCOVAXファシリティについては第3節で詳しく説明する。

図-1 ラテンアメリカ COVID-19 ワクチン調達状況、国別  
(2021年4月上旬 現在)

A. ワクチン調達回数分  
(人口比)



B. 政府購入によるワクチン回数分  
(単位: 百万回)



出所: Luisa Horwitz and Carin Zissis(2021),“Timeline: Tracking Latin America's Road to Vaccination”, Council of the Americas, March 29.

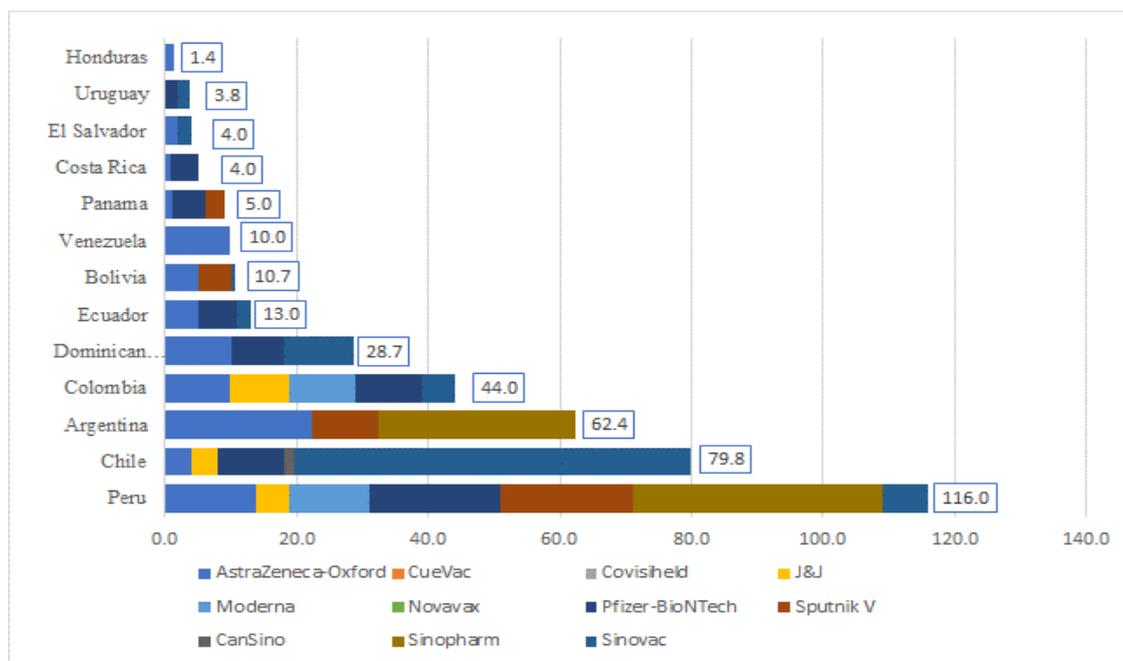
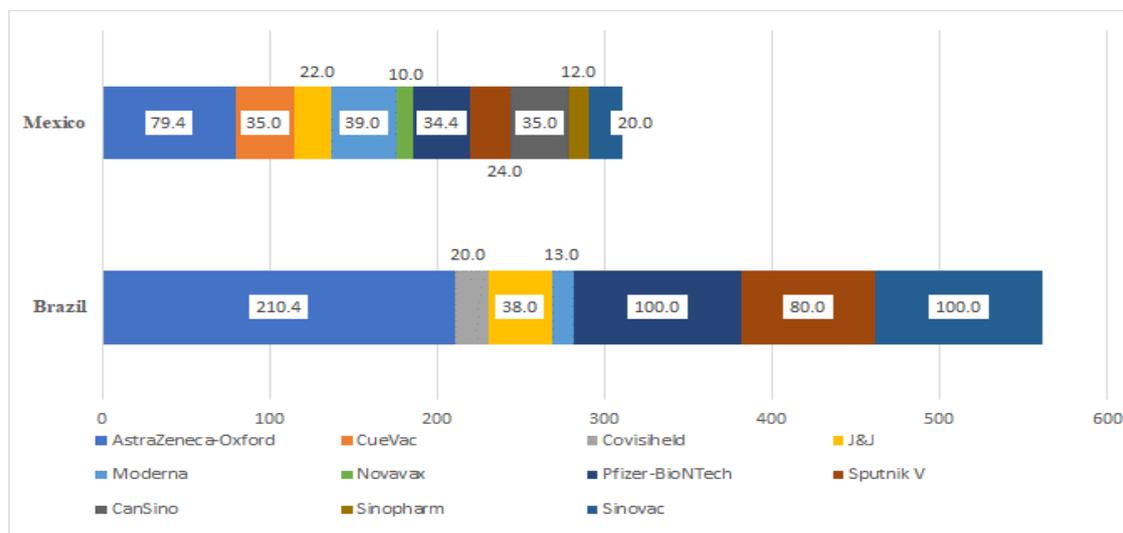
カリブ諸国の中には、COVAXファシリティを活用して、ワクチン接種を進めている国が少なくない。アンティグア・バルブーダでは接種者は100人当たり27人で、ドミニカ(25人)、バルバドス(22人)、セントクリストファー・ネイビス(16人)、セントルシア(13人)など、人口が少ないこともあって、COVID-19ワクチン接種が進んでいる。

LAC諸国は、米ファイザー・独ビオンテック(Pfizer-BioNTech)、米モデルナ(Moderna)、英アストラゼネカ(AstraZeneca-Oxford)、米ジョンソン・エンド・ジョンソン(Johnson & Johnson)、ロシアのスプートニクV、中国の科興控股生物技術(シノバック・バイオテック)<sup>4</sup>と中国医薬集団(シノファーム)等との購入合意・契約を含む、二国間および多国

<sup>4</sup> 北京に拠点を置くシノバック社は、不活化ワクチンの「コロナヴァク」を開発した。これは死んだウイルスの一部を使って体の免疫系を刺激するもので、接種しても深刻な症状が現れることはまずない、と考え

間の取り決めを通じてワクチン確保に積極的に取り組んできた。各主要ワクチンメーカーからの LAC 地域向けの契約回数分は図-2 の通り。

図-2：ラテンアメリカ COVID-19 ワクチン契約回数分、製薬会社別、2021 年 4 月上旬 現在  
(単位 100 万回分)



出所：Council of the Americas の情報 (<https://www.as-coa.org/articles/timeline-tracking-latin-americas-road-vaccination>)、著者が作成。

えられる。一方、米ファイザーと独ビオンテックや米モデルナが開発したワクチンはメッセンジャーRNA ワクチンと呼ばれている。これは新型コロナウイルスの遺伝コードの一部を体内に取り込み、ウイルスのスパイクたんぱく質を生成することで免疫ができる。

契約合意が終っているワクチン回数分を製薬会社別でみると、ブラジルではアストロゼネカ製が最多で、ファイザーとシノバックが続く。米州協会／米州評議会（Council of the Americas）が集計した情報によると、メキシコでもアストロゼネカの割合が高く、中国製よりもモデルナやファイザー製のシェアが高くなっている。人口当たりの接種回数が世界でもトップクラスのチリでは、シノバックの割合が高い。ペルーでは、政府による契約合意の回数分が多く、会社別の調達先も多様化されているが、今のところ、ワクチン接種は期待されたほど進んでいない。LAC 地域全体でみると、アストラゼネカへの依存度が高くなっているのが特徴的だ（図-2）。

3月に入って、アストラゼネカ製のワクチンの接種後に「血栓」が確認されるケースが相次ぎ、一部の欧州諸国が使用を一時停止したことが影響し、比較的安価で大量生産が可能で保管しやすい同社ワクチンのシェアが大きい途上国での接種計画が遅れる可能性が懸念される<sup>5</sup>（BBC News Mundo 2021e）。英国のように、若年層には同社ワクチンの接種を奨励しない国も出てきた。ラテンアメリカで同社のワクチンを避ける動きが広がれば、欧米先進国との接種ペースの格差が一段と深刻になることも考えられる（日本経済新聞 2021b）。

## 1. ブラジル

ブラジルで確認された感染者数は累計で約 1340 万人、死者数は米国に次いで世界で 2 番目に多い 35 万人となっている。4月7日には1日で過去最多の 4195 人の死亡者が確認された（IAD 2021r）。1日の新規感染者数は3月に入って米国を抜き、世界最多を記録している。リオデジャネイロにあるオズワルド・クルス財団のマルガレタ・ダルコルモ医師は、現況を「ブラジルで最悪のパンデミック期」と表現している（BBC News Mundo 2021b）。

第2波が起こった最大の要因は、変異ウイルスだとみられる。1月にブラジルから日本への渡航者から検出された「P1」の呼称で知られる「ブラジル型」の変異ウイルスはブラジル北部の工業都市マナウスで発生したとされ、またたく間に全土に拡大した。感染のスピードは従来型より少なくとも 30～50%速く、感染力が 1.4～2.2 倍と分析する研究結果もある。従来型に比べて再感染の確率も 25～60%ほど高いと言われる。ブラジルでは新規感染者の 7割を P1 が占めている地域もあり、医療崩壊に陥っている。ブラジル全土で集中治療室（ICU）の占有率が 80%以上を超えた。リオデジャネイロとサンパウロのように、ICU 病床数の 90%以上が埋まって危機的な状況にある州都も出ている（BBC News Mundo 2021b）。

---

<sup>5</sup> 同社のワクチンは、71%の有効性を持つとされ、重篤な COVID-19 症例の予防に 100%有効であることが示された。この治験結果は、32,000 人以上（その大半が米国人）のボランティアを対象にしたデータである。

過去に感染が広まった地域で感染者数がリバンドし、死亡者が増えることが懸念される。ブタンタン生物医学研究所（サンパウロ市）は3月31日、南アフリカ株に似たウイルスがブラジルでも検出されたと報告した（IAD 2021m）。

ブラジルでは4月10日現在、人口の12.1%がCOVID-19ワクチン接種を受けた。この時点で約2650万回分が2050万人を対象に投与された。接種総回数で見ると、ブラジルは米国、中国、インド、英国に次いで世界第5位にランクされている。医療従事者、高齢者、先住民を優先したことで、これらグループの70%の予防接種が既に終わっている、とも伝えられる。アマゾンの川沿いの村など遠隔地のワクチン投与を進めるために軍隊が動員された（IAD 2021i）。LAC平均としては高い水準で接種が進んでいるが、100人当たり61回分が投与されたチリ、57回の英国、53回の米国に比べて大きく遅れていることは否めない。

だが、政府がワクチンの調達に関して他のラテンアメリカ諸国に後塵を拝していたわけではない。ブラジル保健省は昨年6月27日、オックスフォード・ワクチンの現地生産に関してアストラゼネカ・ブラジル社との契約に署名している。2021年1月までに3000万回分を生産することを目標に、オズワルド・クルス財団（略称フィオクルス）とで1億2700万ドル相当の契約を結んでいる<sup>6</sup>。12月3日、ブラジル上院は3億7000万ドル相当のアストラゼネカ製ワクチン購入のための大統領令を承認した（Horwitz and Zissis 2021）。政府はアストラゼネカ製の1億回の投与量が2021年前半に到着するとの声明を出していた。12月12日にボルソナロ政権は、2021年6月までに人口の4分の1の5100万人を接種する計画を発表した。医療従事者と高齢者を優先する4段階で構成される接種プログラムは、約1億4800万人のブラジル人（人口2億1200万人の70%）が接種の対象となる見込みだ。ワクチンは国民に無料で提供されるが接種義務はない（Horwitz 2021）。大統領は3月23日、2021年末までに5億回分のワクチンが確保できる見通しと述べた。

ブラジルは全契約回数分（約5億6000万回分）の約30%をアストラゼネカ社から調達する計画だが、ファイザー社およびシノバック社からそれぞれ1億回分、ジョンソン・エンド・ジョンソン社から3800万回、モデルナ社から1300万回のワクチンの購入契約を進めている、と伝えられる（IAD 2021d、2021f）。アストラゼネカ社とセラム・インスティテュート・オブ・インド（Serum Institute of India : SII）が共同で製造するコビシールドワクチン（2000万回）、スプートニク V（8000万回）も契約回数分に含まれる。国内でもワクチン生産が始まっており、「COVAX ファシリティ」によるワクチン調達も進んでいる。政府筋によると、ブラジル製ワクチンの開発は治験に入る段階に近いと報じられる。

---

<sup>6</sup> ブラジル全土で後期治験の段階にあったシノバック製ワクチンの4600万回分のうち、100万回分が12月3日にサンパウロ州のブタンタン研究所に到着した。

現在、ブラジルが COVID-19 の新しい変異体の繁殖地となっていると指摘する専門家は少なくない。変異化が長期にわたって起こることで、より毒性の高い変異株が生み出される可能性がある。世界保健機関（WHO）が1年前にパンデミックを宣言して以来、ボルソナロ大統領は COVID-19 について「泣き言はやめるべき」と国民に呼びかけている（IAD 2021e）。同大統領がブラジルで中国製ワクチンの有効性に疑義を唱えていることも接種が進まない要因の一つであるとの指摘もある。都市封鎖、マスク着用、事業閉鎖などの社会的接触を制限する措置と組み合わせて、高い感染率に対応できる予防接種を広範囲で実行し、集団免疫を増やしながら、変異株の拡散を防いでいくことが重要であると専門家は指摘する（Passarinho 2021）。

ボルソナロ大統領は、経済的損害を懸念してロックダウンによる企業活動停止に抵抗してきた。3月23日の演説で、国民の生活が「まもなく」正常に戻ると述べ、「ワクチンを自給自足できる」と付け加えた。「我々は2021年をブラジル人の予防接種の年にする」と宣言している（IAD 2021f）。一方で、元財務相や中央銀行総裁を含む数百人のブラジルのエコノミストが3月22日に発表した公開書簡のなかで、政府にワクチン接種キャンペーンを加速し、COVID-19の感染爆発を封じ込めるためのより厳しい措置を実施するよう求めた（IAD 2021h）。COVID-19を封じ込めるには、ワクチン購入と現金給付プログラムを含む経済支援を継続し、国民が都市封鎖の措置を厳守していくことが重要だ、と専門家は指摘する（IAD 2021i）。その後、大統領は3月30日にパンデミック対策の一環として、53億レアル（約9億1800万ドル）の財出追加を認める行政命令に署名した<sup>7</sup>（IAD 2021m）。死亡者が急増する4月に入っても、ボルソナロ大統領は、全国的な「ロックダウン」策は講じないとしている（IAD 2021r）。

また、COVID-19感染者と死亡者が急増し、政府のパンデミック対策への批判が強まる中、ボルソナロ大統領は3月29日、6人の閣僚交代を含む大幅な内閣改造に踏み切った。中国からのワクチン調達が遅れ、野党からの強い批判を受けていた反中国寄りのエルネスト・アラウジョ外相が解任された<sup>8</sup>。昨年のブログ記事で、同外相は「Covid-19パンデミックを共産主義の陰謀」として非難していた。大統領はさらにフェルナンド・アゼベド・エ・シルバ防衛相を解任、その後任にウォルター・ソウザ・ブラガ・ネット文官長（陸将）をあてた（IAD 2021l）。

---

<sup>7</sup> ブラジル政府はこれまで大規模な緊急事態援助プログラムを実施してきた。2020年にはCOVID-19の影響で貧困に陥った6800万人救済策として、3200億レアル（560億ドル）超の現金給付を行ってきた。その他の救済措置を合わせると、ブラジルGDPの8%以上の支出となる（IAD 2021i）。

## 2. メキシコ

メキシコの COVID-19 死亡者数は 4 月 10 日現在、約 22 万 7800 人で、世界で 3 番目に多い。しかし、実際の COVID-19 死亡者数はこれを大きく上回る可能性が高い。メキシコ保健省が 3 月 20 日に発表した「メキシコの過剰死亡率」と題する報告書によると、COVID-19 関連の実際の死者数は 60% 近く過少評価されている。メキシコ当局が公式に発表している死者数は約 201,000 人だが、それに加えて、12 万人近い過剰死亡者が出ており、実際の死者数は 32 万 1000 人を超える (BBC News Mundo 2021f)。メキシコ当局発表の致死率は 9.2% と LAC 域内で最も高い水準で推移している。過剰死亡者を加味すると、同率は 14.3% まで上昇する。

ワクチン接種は 4 月 10 日時点では 1120 万回で、人口の 8.5% に留まっている。メキシコでは、昨年 12 月 24 日に 140 万人の医療従事者を対象にファイザー製ワクチンの接種が始まった。3 月 10 日現在、医療従事者 81 万人、教員 1 万 8000 人、高齢者 167 万人にファイザー製、アストラゼネカ製、シノバック製、スプートニック V ワクチンの 1 回目の接種が終わっている。そのうち 61 万人が 2 回目の接種を受けた。3 月 16 日には、全国 144 の自治体において、60 歳以上の高齢者へのワクチンの接種が始まった。初日だけで約 9 万人にアストラゼネカワクチンの 1 回目接種された (Horwitz and Zissis 2021)。政府は、2022 年 3 月までに予防接種を完了するとしていたが、予定通りに完了するためには毎日 50 万回の投与が必要となるため、現時点の接種ペースでは、この目標達成には、はるかに及ばない。

多くの死亡者が出ているメキシコだが、上記したように、ワクチン調達やその開発においては後発国とは必ずしも言えない。メキシコ政府は昨年 10 月 13 日に、アストラゼネカ、ファイザーだけでなく、COVAX ファシリティからの供給を含む 1 億 9800 万回分の追加協定に署名したと発表している (Horwitz and Zissis 2021)<sup>9</sup>。昨年末には、人口の 129% をカバーするのに十分な量が契約されていたことになる (IAD 2021q)。メキシコ政府は 2021 年 1 月 4 日、12 月に承認済みのファイザーワクチンに次いで、アストラゼネカ製の使用を承認した。マルセロ・エブラルド外相は、8 月に発表されたアルゼンチンと共同開発するラテンアメリカ向けの 2 億 5000 万回分の生産計画が軌道に乗れば、メキシコでもワクチン生産が始まるとツイートしている<sup>10</sup>。メキシコはワクチン確保のため、臨床治験にも積極的に

---

<sup>9</sup> カンシノ (中国)、キュアヴァック (ドイツ)、ジャンセン (米国)、ノバヴァックス (米国)、サノフィ・パスツール (フランス)、スプートニック V (ロシア)、レイセラ (イタリア) と第 3 段階治験に入れるように交渉した。メキシコはその時点でワクチン購入総額 16 億ドルのうち 2 億 8100 万ドルの支払いを終えている (Horwitz and Zissis 2021)。

<sup>10</sup> 2020 年 8 月 12 日、メキシコの億万長者カルロス・スリムは、ラテンアメリカ地域向けに、アルゼンチンと提携してアストラゼネカワクチンの地元生産に資金を提供すると発表した。同ワクチンの有効性が認められた場合、毎月最大で 3500 万回分のワクチンを生産する可能性が出てくる (Horwitz 2021)。

参加してきた<sup>11</sup>。政府は、接種を受ける人のためのオンラインプラットフォームを立ち上げる。

米バイデン大統領は3月18日、同国が備蓄する700万回分あるアストラゼネカワクチンの内、カナダに150万回分、メキシコに250万回分を貸し出しの形で供給する方針を明らかにした。両国への供給により、北米経済の復興を後押しする狙いがある。加えて、メキシコの場合、中米からの不法越境者の急増を抑制するための対メキシコ援助の一環と捉えられる、との見方もある。メキシコへのワクチン供給は、COVID-19感染が再爆発し、その封じ込めに必要とされるワクチン回数分が大きく不足するラテンアメリカに対する「目配り」だけでなく、「近年、弱体化する同盟関係を強化し、米国がラテンアメリカの緊急問題への解決に支援意思があることを示したい願望を反映したものだ」と、インターアメリカンダイアログのマイケル・シフター会長は指摘する (Lissardy 2021a)。

ロペス・オブラドール大統領は、マスク着用、社会的距離、PCR検査、感染者の追跡などの措置について、一貫性のあるメッセージを国民に示していないとの批判が強い。日雇いの賃金に頼って生活する低所得者層には外出規制措置に耐えうる経済的な余裕はない。Covid-19が爆発する以前に、評価が高かった国家予防接種プログラムを可能にしていた公衆衛生制度 (Seguro Popular) および条件付き現金給付プログラム (Prospera) を同大統領が解体したことで、政府のパンデミック対策を一層困難にしてしまい、民間の製薬メーカーや製薬販売・流通会社と対立したこともあって、医薬品やヘルスケアサービスに支障が出ている。一方で、ワクチン接種を受けた人の大統領支持率が高くなる傾向が3月の世論調査にみられる。同政権が接種ペースを速めることができれば、本年6月の中間選挙で与党に利するかもしれない、との見方もある (IAD 2021q)。

### 3. チリ

チリではワクチン接種が加速している。わずか3か月足らずで人口の半分以上のワクチン接種を終えた。4月10日の時点で、人口の61%にあたる1200万人が少なくとも1回目の接種を受けており、人口の25%の460万人が2回目接種を終えた。投与回数でも米国の53%を上回るペースだ。既に人口の61%近くの接種を済ませているイスラエルと並んで、世界の主要国・地域の中で最も早いペースで接種が進んでいる。1日あたり約25万回分が投与されている。6月末までに人口の8割の接種を目指す。チリは南米で最初にシノバ

---

<sup>11</sup>エブラルド外相は2月2日、米国とノババックス・ワクチンの第3段階共同治験を、全国7つの医療センターでメキシコ人2000人を対象に行うと発表した (Horwitz 2021)。メキシコ政府は1月27日、全国で8000人のボランティアを対象に、第3段階治験用にドイツ製キュアバック・ワクチンを承認した。中国カンシノ製および米ジョンソン・エンド・ジョンソン製の第3段階治験はメキシコ国内で既に始まっている。

ック D-19 ワクチン接種を始めた国でもある。

チリは 7980 万回分(2 回目の接種を含めて 3500 人超分)のワクチン接種量(人口の 219% をカバーするのに十分な回数)の購入契約を結んでいる。最大の貿易相手国である中国のシノバック製ワクチンの他、アストラゼネカ、ファイザー、ジョンソン・エンド・ジョンソン製ワクチンの調達に成功している<sup>12</sup>。昨年 12 月 24 日に医療関係者向けのファイザー製のワクチン約 1 万回分が到着した。政府は 2 月から大規模なキャンペーンを張って、積極的に接種を進めている。3 月上旬の時点でみると、チリで接種されているワクチン投与量の大半(回数分にして 77%)が中国のシノバック製だとされる。予防接種は、大半の国民にとって無料で自発的だが、リスクの高いグループには義務化されている。学童の予防接種も必須となる予定だ。チリには余剰があることから、エクアドルやパラグアイに対して 2 万回分を寄付することを決めた(Harrison and Horwitz 2021)。

セバスチャン・ピネラ大統領は、2020 年 12 月 1 日に国家ワクチン計画を公式に発表した。政府はワクチン確保の必要性を早い段階から認識し、先手先手を打って接種の準備を進めてきた<sup>13</sup>。「国家予防接種プログラム」に基づき、40 年以上前から流行病の予防接種が実施されており、国民はワクチン接種には違和感がそれほどない。人口の 80%以上をカバーするプライマリ・ヘルスケアセンターのネットワークを活用して、短期間で広範囲にワクチンを配布することができている。各自治体に新しいセンターが創設され、人口密度が最も高い地域で優先的に接種が行われている。財務省、科学省、保健健康省など、省庁の間でワクチン購入・配布について事前調整され、保健当局による優先順位に従って、全人口が公平な方法で予防接種を受けることができる(IAD 2021d)。先進国で開発されたワクチンだけでなく、中国製、ロシア製も選択肢として考慮し、調達先の多様化を図ってきたこともワクチン接種が加速している要因の一つだと専門家は指摘する(Pichel 2021)。

チリの大学研究機関が海外の製薬会社の臨床治験に協力してきたこともワクチンの早期調達に役立っている<sup>14</sup>。首都サンティアゴに人口の 3 割が集中しており、サッカースタジアム、ジム、屋外スペース、ショッピングモールなど広い施設を会場にして、歯科医や助産師

---

<sup>12</sup> チリ政府はロシア製ワクチン「スプートニク V」の確保に向けて交渉を継続中だと報じられる。同ワクチンは、世界各国で 24 億回分以上の供給要請があり、現時点での交渉では、チリへの供給量が確定していないものの、これまでに正式に決定しているシノバック製 6000 万回分、ファイザー製 1000 万回分、COVAX ファシリティによる 760 万回分、アストラゼネカ製 400 万回分、ジョンソン・エンド・ジョンソン製 400 万回分のワクチン確保を目指すとして報じられる。

<sup>13</sup> ピネラ大統領は、ワクチン投与の早期調達を優先し、2020 年 9 月に 1000 万回分のファイザー社との契約を発表している。同政府はその後に、アストラゼネカ製、ジョンソン・エンド・ジョンソン、COVAX ファシリティと契約を結んでいる(Harrison and Horwitz 2021)。

<sup>14</sup> チリの 4 大学がワクチン開発社との合意に達している。特に、カトリック大学とシノバック社が共同開発に合意し、科学的小および臨床研究を通じて COVID-19 ワクチンの共同研究が進んだことがチリに対する優先アクセスを可能とした重要な要因であったと指摘される(Pichel 2021)。

など、多くの医療従事者も予防接種に参加し、中央政府による調整の下、州政府、地方自治体も積極的に参加して、より多くの予防接種センターを活用できている (Pichel 2021、日本経済新聞 2021a)。保健省は「私の予防接種」プラットフォームを立ち上げて、いつ、どこで接種を受けられるのか、個人への接種に関する情報について問い合わせ・追跡できるシステムをも設けている (Harrison and Horwitz 2021)。

ワクチン接種が世界の中でも最も早いペースで進むチリだが、本年 3 月になって昨年 6 月と 7 月と同じようなペースで感染が急拡大している。保健省のデータによると、2 月末から 1 日の新規感染者が 5000 人を回るようになった。4 月 9 日、チリでは過去最多の 9151 人の新規感染者が確認された。Covid-19 検査の陽性率は 10% 近くまで上昇しており、昨年 11 月の約 4.1% から顕著に上昇している。重症者および死亡者を減らすには、人口の 80% が予防接種を終えた段階でワクチンの有効性が出てくると言われるが、チリの場合でも、まだ、その段階には達していない (Lima 2021)。

感染拡大を受けて、病床占有率も昨年のピーク時で記録された高水準にまで逼迫しており、人口の 75% に当たる 1400 万人が都市封鎖の状況に置かれている。保健省は 3 月 25 日に、サンチャゴ首都圏全ての区に対して義務的自宅待機措置を講じると発表した。それまでは、警察から許可を受けてれば週末に 3 時間買い物に出かけることが可能であったが、3 月 22 日からその許可が下りないことになった。国境閉鎖による外国人に対する入国制限も延長された。

チリでの感染の再拡大は、コロナ禍に対する疲弊感が国民の間で広まる中、夏期休暇で気のゆるみが出て、自粛基準が緩和されたことと深い関係があると、チリ保健省はみている。チリの現状は、英国が夏期休暇後に経験した現象とよく似ていると、チリ感染学会副会長を務めるチリ大学のクラウディア・コルテス教授は説明する。政府は特別許可を出したことから、400 万人から 500 万人が地方で夏期休暇を過ごした。これらの避暑地で感染が爆発し、観光地の病床状態が逼迫したとも言われる (Lima 2021)。公衆衛生ガイドラインを尊重しない若年層が増えていることも感染拡大に繋がっている。予防接種キャンペーンが順調に進んでいることで、多くの人々が予防接種の有効性を過信し、気のゆるみが出ている、との指摘もある (Roura 2021、IAD 2021p)。チリではブラジルおよび英国の変異種が確認されているが、変異種に関する研究・検査能力も十分ではない。

同国は、パンデミックが発生して以来、ラテンアメリカで人口あたり最多の PCR 検査を実施してきた。政府は広範囲で PCR 検査を実施できる能力を持ち合わせるが、感染者のあぶり出しには十分に効果が出ないうちにウイルスの感染が広がったとも考えられる。防疫対策や外出制限などの措置を順守する国民は当初は多かったが、パンデミックが長引くと、

インフォーマルセクターへの依存度が高い雇用構造もあって、最貧地域ではテレワークなどの防疫対策の選択肢は限られている。

COVID-19 の再感染拡大を封じ込めるため、ロックダウンの範囲が拡大される中、ピネェラ大統領は 3 月 22 日、60 億ドル（GDP の約 2%）相当の新たな緊急支出措置を発表した。これまでの経済救済措置と合わせると、支援総額は 180 億ドルまで膨らみ、GDP 比で見ると 8%に上る。この緊急措置には、家計への追加援助、新しい雇用補助金、失業保険、ウイルス検査のための追加支出が含まれる。首都サンティアゴ市にある国際空港では、非居住者の入国が停止された（IAD 2021n）。同大統領は 3 月 27 日の演説で、4 月 10 日、11 日に予定されていた、新憲法草案を担う憲法制定議員、および市長、市議会、知事の選挙を 5 月 15 日、16 日に延期することを決めた。

#### 4. パラグアイ

これまで COVID-19 感染者を極めて低い水準に抑え込んでいたパラグアイで、3 月に入って感染が爆発している。4 月 10 日までに 23 万 4000 人の感染者（うち死亡者 4750 人）が確認されている。3 月初旬以降は 1 日の感染者が 2000 人を超える日が多くなった。3 月中旬からは死亡者数が 60 人を超える日もある。100 万人あたりの累計死亡者数も 650 人を超えた。

パラグアイは昨年に COVAX とワクチン供給契約を結んでいたが、予定より遅れてきた 2021 年 3 月 19 日に、アストラゼネカ製の 3 万 6000 回分がチリ経由で到着した。人口 700 万人に対して、僅か 4000 回分のスプートニク V ワクチンが 3 月初めに調達された。フリオ・ボルバ新保健相は記者会見で、政府の優先事項は「できるだけ早くより多くのワクチンを手に入れる」ことであり、保健ネットワーク全体に素早く届くように薬品管理システムを強化すると述べた（Cueto 2021）。これまでに 4 万 8700 回分しか投与されておらず、パラグアイの 100 人当たりの接種者数（接種数）は 0.68 人で、ボリビア（3.63 人）、エクアドル（2.02 人）、エルサルバドル（2.78 人）と比べても、ワクチン調達とその配布が遅れていることがわかる。

パラグアイはこれまで厳格な措置を講じてパンデミックに対処してきた。COVID-19 の感染拡大がラテンアメリカで猛威を振るい始めた 2020 年当初に、マリオ・アブド・ベニテス大統領は国境を閉鎖し、検疫体制を整え、感染封じ込め対策を講じた。昨年 3 月上旬に COVID-19 の最初の感染者が確認されてから、政府は学校閉鎖、公私イベントの制限、夜間外出禁止に踏み切った。これらの制限は、WHO がパンデミックを宣言した前日の 3 月 10 日から課されている。隣国のブラジルで感染爆発が起こると、政府は医療保健体制の脆弱性

とその崩壊の可能性を危惧して、厳格な防疫措置をとるようになった。2021年3月からの感染者急増を受けて、パラグアイ政府は、3月18日から4月4日まで実施する外出制限に関する大統領令を公表し、国内24か所の地域で、外出できる時間帯を午後5時～午後8時に短縮した。学校での対面授業は再びオンラインに戻すこととした<sup>15</sup>。

国民の気のゆるみとブラジルで発生した変異種の感染拡散が主要因だとパラグアイ感染学会会長のエレナ・カンディア博士は指摘する（Cueto 2021）。今年初めに感染者が急増した際、十分な財源が確保されておらず、公衆衛生システムが抱える構造問題が浮き彫りになった。パラグアイでは、医療品、医薬品が不足しており、多くの公立病院の病床が埋まって、集中治療室の収容能力も不足している。保健省は3月3日、パンデミックの封じ込めに全力を注ぐために、国内の公立病院で予定されているすべての手術の停止を決めた。

首都アスンシオンで3月8日、政府のCOVID-19対応を巡って、ベニテス大統領の弾劾を求める抗議デモが4日連続で行われた。デモ参加者は、新型コロナの感染拡大を受けた医薬品や集中治療病床の不足を巡り当局者を批判し、「大統領を追い出せ」などと叫んだ。COVID-19 ワクチンの調達が遅延したために批判の的となったフリオ・マゾレニ保健相が3月5日に辞任した。教育相、女性問題担当相、大統領首席補佐官を解任して内閣改造が行われた（Cueto 2021）。

COVID-19 パンデミックへの対応をめぐる国会では、ベニテス大統領の弾劾を求めた3月17日の投票で、与党コロラド党が支配する下院において42対36票の差で否決された。その際も、何百人もの人々が議事堂の外で抗議し、ワクチンの購入に関連してパンデミックと汚職疑惑の責任で大統領の辞任を要求した。「現在起こっている腐敗に対するデモは、行政および保健医療制度の管理ミスに対する当然とも言える反応であり、現政権に限ったものではない」と、マヌエル・マリア・カセレス駐米パラグアイ大使は語る（IAD 2021g）。

## 5. ウルグアイ

これまでCOVID-19の封じ込め対策では優等生とされてきたウルグアイでも感染が爆発している。4月9日には1日の新規感染者数が過去最多の7289人と確認された。3月から死亡者も急増している。7日移動平均でも、100万人当たりの新規感染者数（988人）はLAC諸国の中で最多となり、ブラジル（337人）を遥かに上回る。一方で、ワクチン接種は順調に進んでいる模様だ。4月10日現在、約102万回分が投与されており、2回目の接種も8万7300人が終わっている。少なくとも人口の29%が1回目の接種を受けたこと

---

<sup>15</sup> 4月4日に発表された大統領令によると、政府は4月5日から4月12日まで、パラグアイ全土で外出できる時間帯の制限を緩和し、午前5時から午後11時59分とした。

になる。LAC 地域では、4月中旬の時点で、人口 100 人当たりにしてチリに次ぐ 2 番目に高い接種率となっている。

ラカジェ・ポウ政権は、ワクチン購入の詳細に関し、ファイザー社（200 万回分）およびシノバック社（175 万回分）と 1 月 23 日に合意し、ワクチンのウルグアイ到着は 2 月下旬から 3 月になる見込みだと発表していた。その他にも、COVAX ファシリティの枠組みで 150 万回分が予約済みで、3 月には人口の約 3% に接種可能な量が入手できる見込みだとの表明を出していた。また、その他 3 製薬会社との交渉を継続中である旨を明らかにした。まずは医療関係者、高齢者施設で暮らす高齢者、教職員から接種を開始する。接種を受けるのは義務ではないが、政府としては 280 万人への接種を目指すとしている。中国のシノバック社から提供された最初のワクチンについては、60 歳以上の年齢層に対する治験が不十分だとして、高齢者を優先することなく、国民全体に予防接種を行う予定であるとも報じられる。ウルグアイでは、新規感染者が最多を記録した 3 月 14 日からワクチン接種が始まった（Lissardy 2021b）。接種開始が遅れ、感染拡大が加速していることから、ワクチンの効果が出てくるには、時間がかかりそうだ。

ウルグアイは昨年からの外出禁止令などの強制的な措置を伴わない柔軟な防疫対策をとってきた。ラカジェ・ポウ大統領はこの方針を「責任を伴う自由」と定義して、国民に自宅自粛するよう訴える一方で、隣国で行われた警察による外出行動の抑制措置は避けてきた。政府の要請に従い、ウイルスの感染拡大が抑制されるにつれ、2020 年 4 月の時点では事業閉鎖を解除し、建設、商業、学校、レストランを再開した。しかし、年末から感染者が増加している。その背景には、夏期休暇からの帰省者が増えたのと同時に、ブラジル発の P1 型異変種による感染がウルグアイにも拡大している現状がある。政府は、P1 型変異株の流行に鑑み、新たな外出制限措置を 3 月 23 日に発表した<sup>16</sup>。

### III. COVAX ファシリティ

「COVAX ファシリティ（COVID-19 Vaccine Global Access Facility）」は、COVID-19 ワクチンを、複数国で共同購入し、低中所得国を中心に公平に配布するための国際的な枠組みである<sup>17</sup>。2021 年末までに 20 億回分のワクチンを、「COVAX ファシリティ」に参加す

---

<sup>16</sup> 次のような措置が 4 月 12 日までとられる。① 必要不可欠なサービスを除き官公庁を閉鎖、② アマチュア・スポーツの実施中止、ジムの閉鎖、③ 公共の催しの中止、④ 国境地帯のフリーショップの閉鎖、⑤ イベントやパーティーの中止。その他に、政府は、⑥ バーやレストランの営業は衛生規定を厳守した上で深夜 0 時までとし、⑦ 観光週間の間、サルト県およびパイサンドゥ県の温泉施設を閉鎖して、⑧ 観光週間が終わるまで全ての教育機関における出席型授業の停止、⑨ 観光週間後には状況を見つつ小学校から段階的に再開する、としている。

<sup>17</sup> 購入方式に関しては、購入権を確保するが、購入義務は負わないことになっている。ワクチンを選択可能。拠出金は 1 ドーズあたり 3.1 ドル。なお、参加方式には購入コミット方式もある。

るすべての国（現在 190 か国）の国民に公平に届けることを 2020 年 12 月時点の目標としている。2021 年 2 月の発表では、同ファシリティの第 1 段階として、ファイザー製およびアストラゼネカ製のワクチンを合わせて 3 億 3720 万回分が配布される計画で、2 月末、早ければ 3 月までに開始できるとしている<sup>18</sup>。低所得国にはワクチンが無償で提供されるが、高所得国は自己資金で調達する。低所得国は、COVAX を通じて必要なワクチン供給を受けることが可能だが、全ての COVAX 対象国に対して供給が行き渡るまでは、各国の人口 20% 上限とする回数分が配布される。4 月 1 日の時点で、COVAX は 3300 万回超の COVID-19 ワクチンを 74 の参加国に提供している。

表-2 ラテンアメリカ・カリブ：COVAX ファシリティによる COVID-19 ワクチン調達の進展状況  
(2021 年 4 月上旬 現在)

	割当回数	調達日	到着回数分
アルゼンチン	1,944,000	3月28日	218,400 (AstraZeneca)
バルバドス	100,800	4月7日	62,400 (AstraZeneca)
ボリビア	672,000 (SII-AstraZeneca) 92,430 (Pfizer-BioNTech)	3月22日	228,000 (SII-AstraZeneca)
ブラジル	9,122,400	3月21日	1,022,000 (AstraZeneca)
チリ	957,600		
コロンビア	2,066,400 (AstraZeneca) 117,000 (Pfizer-BioNTech)	3月1日	244,800 (SII-AstraZeneca) 117,000 (Pfizer-BioNTech)
ベリーズ	100,800	3月31日	33,600 (AstraZeneca)
コスタリカ	218,400	4月7日	43,200 (AstraZeneca)
ドミニカ		4月6日	28,800 (AstraZeneca)
ドミニカ共和国	542,400		
エクアドル	756,000	3月18日	84,000 (AstraZeneca)
エルサルバドル	225,600 (AstraZeneca) 51,480 (Pfizer-BioNTech)	3月12日	33,600 (AstraZeneca), 51,480 (Pfizer-BioNTech)
ガイアナ	100,800	3月29日	24,000 (AstraZeneca)
グアテマラ	847,200		
ハイチ	876,000		
ホンジュラス	424,800	3月13日	48,000 (AstraZeneca)
ジャマイカ	124,800	3月15日	14,400 (AstraZeneca)
メキシコ	6,472,800		
ニカラグア	432,000	3月16日	135,000 (SII-AstraZeneca)
パナマ	216,000		
パラグアイ	304,800	3月19日	36,000 (AstraZeneca)
ペルー	1,770,600		
トリニダード・トバゴ	100,800 (AstraZeneca)	3月31日	34,000 (AstraZeneca)
ウルグアイ	172,800		
ベネズエラ	1,425,600		

出所：GAVI のデータおよび BBC News Mundo (2021) に基づき、筆者作成。

<https://www.gavi.org/covax-vaccine-roll-out>

<sup>18</sup> 第 1 段階で配布されるワクチンの大半はアストラゼネカ製で、その内訳として、アストラゼネカ社が直接生産する 9600 万回分に加えて、同社がインド血清研究所 (SII) と共同して提供する 2 億 4000 万回分が含まれる。加えて、ファイザー・バイオンテック製の 120 万回分の配布も予定されている。第 1 段階では合わせて 145 か国、世界人口の 3.3% が対象となる。そのほとんどが中低所得国だが、中には、カナダなどの高所得国も対象に含まれており、その是非について論争が起こっている。

第1段階の配布分の約10%がLAC諸国に向けられる。域内で最大の回数分(912万回分)がブラジル向けで、続いてメキシコ(650万回分)、コロンビア(220万回分)となっている。ハイチ、ボリビア、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、ドミニカ国、グレナダ、ガイアナ、サンタルシア、セントビンセント、グレナディーン諸島などが無償で受け取ることができる(ECLAC 2021)。

開発途上国の予防接種率向上を目的とした官民パートナーシップ「Gavi ワクチンアライアンス」によると、4月上旬の時点では、アルゼンチン、バルバドス、ベリーズ、ボリビア、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、ホンジュラス、ジャマイカ、ニカラグア、パラグアイ、トリニダード・トバゴに、割当分の一部に過ぎないが配達が終わっている(表-3を参照)。ブラジルには割当分の11%に当たる約100万回分が3月21日に到着した。割り当て回数の11%の21万8000回分が3月28日にアルゼンチンに到着している。

#### IV. ラテンアメリカでのワクチン開発の試み

ECLAC(国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会)によると、LACで人を対象とした治験結果を発表した唯一の研究機関として、キューバのフィンレー・ワクチン研究所(IFV)および遺伝子工学バイオテクノロジー・センター(CIGB)があげられる。IFVは昨年12月18日にソベラナ2ワクチンの第2段階の治験を開始し、2021年3月には第3段階の治験の開始を発表している。キューバは2021年に1億回のソベラナ2ワクチンを生産する計画だと報じられる。その他に、ブラジルのサンパウロ大学(USP)、メキシコ国立自治大学(UNAM)、アルゼンチンのサンマルティン国立大学(UNSAM)、チリのカトリック大学が前臨床段階にあるワクチンを開発している(ECLAC 2021)。

地域外の研究所が開発したワクチンの一部を共同生産することでも合意に達した事例もある。アストラゼネカ社はメキシコのカルロス・スリム財団と契約を結び、アルゼンチンのバイオテクノロジー企業(mAbxience)とでワクチン試薬を製造し、メキシコのリオモンテ(Liomont)研究所がラテンアメリカ域内での配布を目指す。生産能力は年間1億5000万~2億回分と推定される。オズワルド・クルス財団がブラジル向けのワクチンを製造する計画もある。ブラジルの製薬会社ユニオン・キミカとベネズエラが共同でロシア製のスプートニクVワクチンの生産に踏み切る可能性も伝えられる。サンパウロ州政府は中国のシノバツと共同で、4,600万回分を現地生産に動き出している(ECLAC 2021)。

## V. 「VIP ワクチン」 スキャンダル

LAC 域内でワクチン接種が進まない理由として、ワクチンに対する国民の不信感だけでなく、ワクチンが国民に公平に行き渡っていないとの政府に対する批判の他に、特権階級の権力濫用と腐敗など、経済社会格差に起因する問題がある (Lissardy 2021a)。メキシコ政府が指摘するように、先進国によるワクチンの「買占め」に関する懸念も払拭できていない。国連総会は 2020 年 4 月 20 日、COVID-19 の拡散防止策として、メキシコ政府提案による、医薬品、ワクチン、医療機器などの平等なアクセスを目指して国際協力を求めた決議案 (74/274) を採択した。これに先立ち、ロペス・オブラドール大統領は 3 月 26 日開催の G20 (20 か国・地域) サミットで、国連は世界で医薬品、ワクチンおよび医療機器への平等なアクセスを確保するために介入すべきだと提案した背景がある。

政治家や政府高官などの特権階級が医療従事者や高齢者、持病保持者に先駆けてワクチンを接種する「VIP ワクチン」スキャンダルがラテンアメリカ各地で次々と発覚し、各国で社会問題となっている。アルゼンチンではゴンザレス保健相が家族や知人にワクチンを秘密裏に接種を認めていたことが発覚し、辞職した。ペルーではアステテ外相やビスカラ前大統領など約 480 人がワクチンを提供する中国医薬集団 (シノファーム) から「厚意の接種」として、内々でワクチンを提供されていたことが判明、アステテ外相は辞職に追い込まれた。エクアドルでもセバジョス保健相が母親が入居中の老人ホームにワクチンを優先配布していることが発覚し、辞職した。チリでも 3 万 7000 人の健康な人々が優先的に接種を受け、捜査の対象となった。ブラジルでも少なくとも 4000 人以上が順番を無視して接種されていることが発覚した。ワクチンの盗難、闇市場への流通の問題も指摘されている (Lissardy 2021a、外山 2021)。

## VI. 結論に代えての附言

LAC 域内では、チリのようにワクチン接種が世界的にみて最も進んでいる国もあれば、多くの感染者、死亡者が出ていてもワクチンの確保が遅れて接種が進んでいない国も多くある。また、ブラジルのように人口比では接種回数が比較的多い国でも、変異種による感染爆発が起こり、新規感染者および死亡者が過去最多となっている国もある。世界全体で見ると、ラテンアメリカでは、ワクチン接種の進捗状況とは裏腹に、第 2 波か第 3 波の感染拡大が起きている国が多い。感染力が強いとされる変異種が LAC 域内で年央からさらに拡散し、感染者数が爆発的に増加する恐れがある。感染拡大の抑止をワクチンだけに頼るには限界があると考えられる。集団免疫の効果が出てくるまでは、その他の感染拡大防止策との併用が重要となってくる。

COVID-19 ワクチンの効果が期待されたほど出ていない背景には、次の 5 つの要因があると考えられる。① 集団免疫ができてワクチンが効果を発揮するには時間がかかり、必ずしも 100%有効ではなく、② 予防接種を受けた人口がいまだに限られ、③ 若年層がワクチン接種の対象から外れている中で、④ COVID-19 対策による国民の疲弊感や気のゆるみもあって、⑤ 世界で接種率が大きく異なること、などが挙げられる (BBC News Mundo 2021c)。上記の要因に加えて、世界の 20 か国を超える国で感染が確認されているブラジル変異種による感染爆発がある。毒性が高い変異株の流行で世界的に感染拡大し、脅威となっている (IAD 2021c)。これらの要因が複雑に重なり合い、ワクチン接種が今のところ感染拡大の防止、発症、重症化の特効策になっていないのが現状だ。

国連開発計画 (UNDP) LAC 地域ディレクターであるルイス・F・ロペス=カルバによると、ワクチン接種キャンペーンを成功させるためには、ワクチン確保に対する政府の予見性と接種体制の構築だけでなく、ワクチンを公平に素早く国民に届けることが出来るガバナンス能力が不可欠となる。ワクチン購入に必要な財源を確保して、国内配布を透明性を確保した形で行い、それを実施するための制度的能力を持ち合わせる事が重要となる。世界でも接種ペースが特に速いチリの場合はこれら条件が満たされていた。しかし、ワクチン接種のみで感染拡大を封じ込めるには、時間がかかりすぎた。

COVID-19 ワクチンの接種が先行する国で、都市封鎖の措置を緩和する動きが相次いでいる。イスラエルは 2 月 21 日に緩和を実施し、英国も 3 月 8 日から段階的な緩和に踏み切った。その判断を後押しするのが、これらの国で進むワクチン接種キャンペーンである。ワクチン接種が進んで感染拡大が収束する状態は「集団免疫」と呼ばれるが、どれだけの割合の人口が接種を受ければこの状態に達するのかは、今のところ明らかになっていない。人口の 6 割がワクチンを接種すれば集団免疫の状態になるとの説もあるが、実際に接種するワクチンの有効性にも左右される。各ワクチンの変異種に対する有効性も変わってくる。接種済みの人口が増えたとしても、ワクチン接種を受けた人が高齢者に偏ったりすると、若者の間や特定の地域で感染拡大が続く可能性がある。

また、集団免疫の状態に至っても、再び流行が起こらないとは限らない。ブラジル北部の都市マナウスでは、2020 年の 6 月～8 月に大規模な流行が発生したことで、住民の 7 割が抗体を保有する集団免疫の状態に至ったとする見方もあったが、変異種の影響もあって、年末から再び感染が拡大している。COVID-19 については、分からないところが多く、また COVID-19 が最後の感染症ではなく、これからも新しいウイルスが発生する可能性は高い。ラテンアメリカ諸国は、域内外の国との協力体制を強化して行かなければならない。

政治家や政府高官などの特権階級によるワクチン・スキャンダルが LAC 域内で社会問題

になった。各国で効果的なパンデミック防疫策とともに予見性のあるワクチン調達策が講じられ、公平で透明性の高い方法で国内配布されなければ、国民の不満が募って政情不安が高まり政権の支持率を左右する。時には政権を揺るがしかねない。技術的ミスや政府当局の対応の拙さ、政治的な失態により、ワクチンへの信頼が損なわれ、接種に対する不信感が高まる。また、ワクチン接種が所得水準の違いをこえて幅広く進まなければ、経済格差、不平等、貧困に悪影響を及ぼす。その点でも、各政府のパンデミックに対するガバナンス能力の向上、「教育」を通じてのワクチンに対する信頼の回復、LAC 域内でのワクチン生産・配布体制の強化、COVAX のような国際的な枠組みの拡充・利用が必要になってくる。

## 参考文献

### 英語・西語文献

BBC News Mundo (2021a), “Coronavirus: los países de América Latina que recibirán antes las vacunas del Covax”, 4 de febrero. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-55927546>

BBC News Mundo (2021b), “Brasil se está convirtiendo en una amenaza para la salud pública mundial”, 11 de marzo. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56369474>

BBC News Mundo (2021c), “Vacuna contra la covid-19: 5 razones por las que los contagios de coronavirus pueden seguir aumentando aunque se avance en la vacunación”, 18 de marzo. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-56405803>

BBC News Mundo (2021d), “La vacuna de AstraZeneca tiene un 79% de efectividad y no presenta mayores riesgos de coágulos, según nuevos datos de Estados Unidos”, 22 de marzo. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-56482867>

BBC News Mundo (2021e), “Vacunas contra el coronavirus: la OMS califica como "grotesca" la brecha en inmunizaciones entre países ricos y pobres”, 22 de marzo. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-56492222>

BBC News Mundo (2021f), “Coronavirus en México: el gobierno admite que las muertes por covid pueden superar las 300.000 y sería el segundo país con más fallecidos por delante de Brasil”, 29 de marzo. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56559646>

Cueto, José Carlos (2021), “Coronavirus en Paraguay: 3 claves que explican cómo este país pasó de controlar la pandemia a vivir una doble crisis política y sanitaria”, BBC News Mundo, 8 de marzo. <https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56321386>

ECLAC (2021), *Building forward better Action to strengthen the 2030 Agenda for Sustainable Development* (LC/FDS.4/3/Rev.1), Santiago de Chile, March 16.

Harrison, Chase and Luisa Horwitz (2021), “Covid Check-in: Chile’s Coronavirus Paradox”, Council of the Americas, March 26.

Horwitz, Luisa (2021), “Timeline: Latin America’s Race for a COVID-19 Vaccine”, Council of the Americas, February 4.

<https://www.as-coa.org/articles/cronologia-la-carrera-de-america-latina-por-una-vacuna-covid-19>

Inter-American Dialogue (2021a), “Brazil Launches Plan to Vaccinate Entire Town in Study”, Latin America Advisor, February 18.

Inter-American Dialogue (2021b), “What Is Driving Chile’s Success With Vaccinations?”, Latin America Advisor, March 2.

Inter-American Dialogue (2021c), “Brazil Records Deadliest Day as Variant Spreads”, Latin America Advisor, March 3.

Inter-American Dialogue (2021d), “Brazil Continues to Suffer From Record Number of Deaths”, Latin America Advisor, March 10.

Inter-American Dialogue (2021e), “Brazil Has World’s Highest Daily Covid-19 Death Toll”, Latin America Advisor, March 11.

Inter-American Dialogue (2021f), “Brazilian Economists Demand Measures to Contain Covid-19”, Latin America Advisor, March 23.

Inter-American Dialogue (2021g), “Will Protests Keep Roiling Paraguay’s Government?”, Latin America Advisor, March 23.

Inter-American Dialogue (2021h), “Brazil Reports More Than 3,000 Covid Deaths for Single Day”, Latin America Advisor, March 24.

Inter-American Dialogue (2021i), “Can Brazil Stop Spiraling Covid-19 Cases and Deaths?”, Latin America Advisor, March 26.

Inter-American Dialogue (2021j), “Chile to Lock Down Santiago Area Amid Surge in Covid Cases”, Latin America Advisor, March 26.

Inter-American Dialogue (2021k), “Mexico’s True Covid Death Toll May Be 60% Higher”, Latin America Advisor, March 29.

Inter-American Dialogue (2021l), “Brazil’s Bolsonaro Shuffles Cabinet as Covid Deaths Soar”, Latin America Advisor, March 30.

Inter-American Dialogue (2021m), “Brazil Records More Than 66,000 Covid Deaths in March”, Latin America Advisor, April 1.

Inter-American Dialogue (2021n), “Chile Closes Borders for 30 Days Amid Rise in Covid Cases”, Latin America Advisor, April 2.

Inter-American Dialogue (2021o), “Argentine President First in World to Test Positive With Vaccine”, Latin America Advisor, April 5.

Inter-American Dialogue (2021p), “Is Chile’s Piñera Doing Enough to Defeat Covid-19?”, Latin America Advisor, April 6.

Inter-American Dialogue (2021q), “How Effectively Is Mexico Fighting the Covid Pandemic?”, Latin America Advisor, April 8.

Inter-American Dialogue (2021r), “Brazil Will Have ‘No National Lockdown’: President Bolsonaro”, Latin America Advisor, April 8.

Lima, Lioman (2021), “Coronavirus en Chile: cómo se explica que pese a la buena vacunación tenga la tasa de contagio más alta desde el peor momento de la pandemia”, BBC News Mundo, 11 de marzo  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56261426>

Lissardy, Gerardo (2021a), “Escándalos con la vacuna del coronavirus: cómo la lucha contra la covid-19 desnuda viejos vicios de América Latina”, BBC News Mundo, 26 de febrero.  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56218624>

Lissardy, Gerardo (2021b), “Cómo Uruguay pasó de ser una excepción en la pandemia de coronavirus al país con mayor tasa de casos nuevos en América Latina”, 16 de marzo.  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56412203>

Lissardy, Gerardo (2021c), “Vacuna contra la covid-19: el envío de dosis a México puede ser el gesto más significativo de Biden hacia América Latina”, BBC News Mundo, 19 de marzo.  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56452798>

Passarinho, Nathalia (2021), “Coronavirus: por qué la vacunación sin confinamiento puede convertir a Brasil en una “fábrica” de variantes superpotentes”, BBC News Brasil, 5 de marzo.  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-56293609>

Pichel, Mar (2021), “Coronavirus en Chile: las claves que explican la exitosa campaña de vacunación contra la covid-19 en el país sudamericano”, BBC News Mundo, 11 de febrero.  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56026037>

Roura, Ana María (2021), “Cómo se convirtió Chile en el líder de la vacunación contra la covid-19 de América Latina”, BBC News Mundo, 3 de marzo 2021  
<https://www.bbc.com/mundo/noticias-america-latina-56267103>

## 日本語文献

外山尚之 (2021) 「ワクチン接種、権力者優先 中南米で発覚相次ぐ」日本経済新聞 3月1日。

日本経済新聞 (2021a) 「チリ、ワクチン接種最速：欧米中から調達」3月16日。

日本経済新聞 (2021b) 「英社ワクチン欧州で再開 途上国、接種に懸念残す」3月23日。